

西学東漸研究の中文・日文文献情報

著書

1. 『漢語中的馬克思主義術語的起源與作用』[ドイツ] 李博 (W. Lippert) 著、趙倩・王草・葛平竹訳、中国社会科学出版社 2003 年 8 月、A5 判、455 頁、32 元
原著は、1979 年に出版された李博氏の博士論文である。第一部分“中國的馬克思主義術語產生的條件”、第二部分“漢語中個別馬克思主義術語的歷史作用”から成る。この号に周振鶴氏による書評が掲載されているので参照されたい。李博氏はドイツ・エランゲン大学の漢学教授で、数年前退官された。氏は、かつて大阪で 5 年間ドイツ語を教えることがあり、日本語は堪能である。西洋、中国、日本を見渡す研究者として、この問題を取り上げるもっともふさわしい人といえよう。氏の開拓的な仕事は中国語に翻訳されたことは、後学の私たちにとって誠に嬉しいことである。中国語の翻訳者は日本語が解せず、人名、書名がアルファベットのままになっており、中国の読者にとって読みにくい訳書になっていることは少し残念である。
2. 『晚清傳媒視野中的日本』鄭翔貴著、上海古籍出版社 2003 年 8 月、A5 判、274 頁、28 元
修士論文に加筆を加えた本書は、『上海新報』『申報』『西国近事彙編』『万国公報』における日本情報の取り扱いとその影響を実証的に考察するものである。記事の種類、ニュースソース、記事数、文字数など詳細なデータが示されている。日中間（特に日本→中国という方向）の情報、概念、語彙の移動に関する研究にとって基礎的な研究である。
3. 『傳教士與法国早期漢学』閻宗臨著、閻守誠編、大象出版社 2003 年 9 月、A5 判、310 頁、22 元
山西大学教授であった閻宗臨氏が 1930 年代に著した東西文化交流に関する論文をその子息が編集し、出版したものである。
4. 『魔都上海——日本知識人的“近代”體驗』劉建輝著、甘慧傑訳、上海古籍出版社 2003 年 12 月、変形 A5 判、124 頁、18 元
5. 『遐邇貫珍の研究』松浦章・内田慶市・沈国威共編、関西大学出版部、2004 年 1 月、11,000 円、B5 判、720 頁
本書は、研究編と資料編から成る。研究編には松浦章、内田慶市が執筆した論文と沈国威が執筆した解題があり、資料編には同誌の影印本文と全語彙索引（人名地名索引、使用語彙索引）が付されている。

資料

1. 『四洲志』林則徐著、張曼評注、華夏出版社、2002年10月、A5判、198頁、12元
『四洲志』は、林則徐が幕僚たちを命じ、編纂させた世界地理の書である。その内容はほとんど『海国図志』に吸収された。これまでに刊本は、『小方壺輿地叢鈔』にしか見えず、本書は最初の簡体字横組み校正本である。原書を活字本にする際、誤植が怖い。本書は、しっかり校正され、注釈もつけられている。
2. 『西游筆略』[清]郭連城著、上海書店出版社、2003年3月、A5判、132頁、11元
カトリック信者、郭連城が著したイタリア旅行記である。1859年3月ローマに出発し、翌年6月故郷の湖北応城に帰着するまでの様子を日記風に記している。原刻は同治2年(1863)であるが、ほとんど行われず、1921年の増注版が一般的である。上海復旦大学の周振鶴氏がフランスで原書を見つけ、出版に付した。氏による序文をぜひご一読。
3. 『近代訳書目』王韜ほか編、北京図書館出版社2003年10月、105元、B5判、800頁
「泰西著述考」「増版東西学書録」「訳書経眼録」「広学会訳著新書総目」「上海製造局訳印図書目録」「馮承鈞翻訳著述目録」が収録されている。どうしても入手できない目録ではないが、一冊にまとめられ、便利な形になった。

このように中国では西学東漸に関する書物の出版は非常に盛んになってきている。研究の長足の進歩と蓄積を感じさせられる。ちなみに筆者が関係した『六合叢談』『遐邇貫珍』『智環啓蒙塾課初歩』に関する日本語版の研究書も上海古籍出版社より中国語版が出ることになった。